

ときめき、☕
喫茶文化@岐阜
カップ&ソーサー編

25

Q 茶道では、野外でお茶をたてて楽しむ茶会がありますが、何と呼ばれるでしょう。

A 「野だて」です。



季節や場所を選ばない白磁の碗皿。海辺にも溶け込む＝愛知県西尾市、一色漁港



富士山が描かれた西浦焼の碗皿と本物とをめでながら味わうコーヒーは格別＝静岡県富士宮市

美濃焼で野だてコーヒー

茶道には、広間から四畳半以下の小間で親しみながら味わうものなどがありますが、時には茶室から出て野外茶席「野だて」が行われます。近ごろ、ピクニックや軽登山の現場で、食後

に湯を沸かして豆を挽き、コーヒーを楽しむグループを見かけます。これも日常を離れ自然の中で楽しむコーヒー道の「野だて」と言えるでしょう。

季節の移り変わりは早く、自然の中で飲むための碗皿を選ぶのは意外と難しいようです。写真の西浦焼の富士山画コーヒー碗皿では、背景に富士山を眺めて飲むことで、さらにコーヒーが美味しく味わえるように思えます。

もてなす人は景色や季節を考慮して碗皿を選ぶとすれば、それも野外での楽しみでしょう。しかし花の咲く時期は短く、例えば桜の下でコーヒーを飲む碗皿が朝顔の絵柄であったとしたら、参加者から違和感を指摘されるかもしれません。野外で季節の花や景色に合う碗皿が無い時は、周りの自然に影響を受けない白い器（白磁）が良いかもしれません。

とはいえものの、白磁の碗皿にもいろいろな「白さ」があります。比べてみると、透光感のある白、不透明な白、わずかに黄味がかかった白、青味の白など、これらは土と釉薬の持つ材質によるものです。

上の写真は、多治見の清和陶器製の白磁「ボンロア」

この連載が展覧会になりました。企画展「喫茶文化美濃 カップ&ソーサーの歴史」（東濃信用金庫主催）は7月1日まで、多治見市虎渓山町のとしん美濃陶芸美術館で。入場無料。

◇
「おわり」